

新型コロナウイルスの感染対策として、少人数・申し込み制に変更して開催しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回2月のてがたんは2月11日(土)で、テーマは「冬のヨシ原の生き物」です。ぜひご参加ください。2月1日(水)の8時30分から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は2月5日(日)です。

1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場
- 観察日時と天気：2023年1月14日(土) 10:00~11:00 曇り
- 参加人数：19名(大人16名、子ども3名)
- 市民スタッフ：5名(北村章子、小泉伸夫、伊東茂子、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 博物館友の会スタッフ：1名(古澤紀元)
- 鳥博職員：1名(望月みずき)

観察した生き物の記録

【*】は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

カモ科：マガモ、カルガモ、コガモ、ミコアイサ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：クイナ、バン、オオバン／シギ科：タシギ／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ／カワセミ科：カワセミ／キツツキ科：コゲラ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ、イソヒヨドリ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)／ドバト(ハト科)

【昆虫】

チョウ目：ヒロヘリアオイラガ(さなぎ)／ハエ目：オオクロバエ／カマキリ目：ハラビロカマキリ(卵)

【草の花】

ナデシコ科：オランダミミナグサ／アブラナ科：ナズナ／シソ科：ホトケノザ／ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ／キク科：セイヨウタンポポ

【木の実】

クスノキ科：クスノキ、シロダモ／メギ科：ナンテン／バラ科：トキワサンザシ／ウルシ科：ハゼノキ／ウリ科：カラスウリ／モクセイ科：トウネズミモチ／アカネ科：ヘクソカズラ

1月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「冬鳥を楽しむ」でした。曇り空の寒い日でしたが、ツグミやユリカモメ、オオジュリンなど冬らしい鳥を観察しました。枯れたヨシの茎にはビワコカタカイガラモドキという昆虫が隠れていて、小鳥たちの冬の食糧となっています。観察会では実際にヨシの一部を割って中の昆虫を見ることができました。



今月の案内人
望月みずき



①魚を狙っていたカワセミ



②冬鳥のコガモ(右がオス、左がメス)

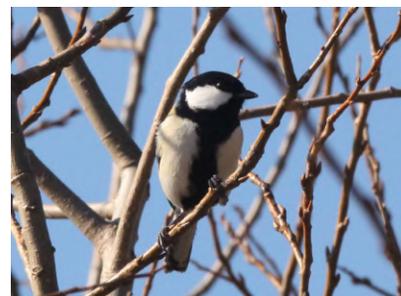
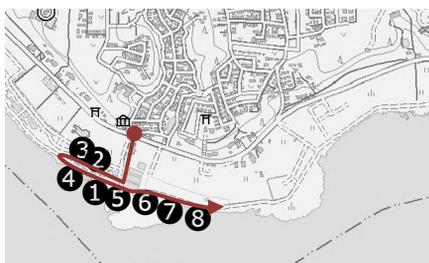


③水底に首を伸ばして採餌するコガモ



④木の上に群れていた冬鳥のツグミ

歩いたルートと観察した生き物



⑤さえずっていたシジュウカラ
※当日は撮影できなかったため別の日の写真



⑥地面に落ちた木の実を食べるキジバト



⑦ヨシの中で採餌するオオジュリン



⑧遊歩道に近いところで休息していたアオサギ

今月の鳥 ツグミ (スズメ目ヒタキ科)

ツグミは夏にロシアなどで繁殖し、秋から冬にかけて越冬のために日本へやってくる小鳥です。我孫子では10月頃から5月頃まで観察することができます。渡ってきたばかりの頃は樹上でカキの実やハゼノキの実をよく食べますが、木の実が減ってくる1~2月頃からは地面に降りてミミズや昆虫の幼虫を食べることが多くなります。同じように地面で採餌するムクドリやハクセキレイは足を交互に出して歩きますが、ツグミは足を揃えてピョンピョンと跳ね歩くため、慣れれば動きを見るだけで遠くからでも見分けることができます。



ツグミは胸を張り背筋を伸ばすような姿勢をすることが多い。